

# 諫早開門 前倒し方針を確認

## 有明訴訟原告・弁護団

### 佐賀市で集会

【西日本新聞・4月22日】国営諫早湾干拓事業(長崎県諫早市)の潮受け堤防排水門の早期開門を求め「よみがえれ！有明訴訟」原告団・弁護団は21日、佐賀市で集会を開き、国が12月と示している開門時期について、ノリ養殖期(10月～翌年4月)を避け、開門の前倒しを求める方針をあらためて確認した。

ノリの養殖期終了を受けて開催。馬奈木昭雄弁護団長は、国の12月開門の根拠が、干拓地で不足する農業用水確保に向けた海水淡水化施設の建設工事のためとしていることに触れ、「ため池や貯水タンクに水を確保すれば、3カ月は前倒しが可能」と強調した。

一部の漁業者からは養殖期を避け来年5月開門の“後ろ倒し”を求める声も上がるが、「引き延ばせば国はほかの理由をつけて先送りをする。前倒しに向け、最後の戦いを頑張ろう」と呼びかけた。

参加者からは「佐賀県産のりは販売量日本一を続けるが、燃料費高騰で所得は年々減るのが現状」「後継

者もいない。一日も早い開門による有明海再生を」などの意見が出た。

## 有明海のアサリ 生育

### 不良の原因特定へ

【佐賀新聞・4月10日】有明海でアサリが採れず、佐賀市諸富町の観光干狩りが中止された問題を受け、県有明水産振興センターは9日、県有明海漁協青年部と調査を始めた。諸富町だけでなく、佐賀市川副町、同市東与賀町、藤津郡太良町の10カ所所で5月中旬まで実施。稚貝の状態や底質を調べ、成育不良の原因を特定する。

底質が砂粒や貝殻粒でなく、粘土質の泥が多い場合は稚貝が流されたり、呼吸ができなくなったりするため、25センチ四方の枠で深さ10センチまで掘り出して検査する。酸素不足の遠因となる有機物や有害物質である硫化物の含有量も分析する。初日は、太良町大浦漁場で採集した。

成育不良の原因としては、九州北部豪雨に伴う淡水流れ込みによる塩分濃度の低下、猛暑による水温上昇などが推測されている。今回の調査で原因を特定し、類似調査のデータ

と比較しながら改善策を検討していく。

有明海のアサリ漁獲量(県関係分)は、1995年の3275トンピークに減少。2008年から50トンを下回り、11年は20トン前後にとどまった。

同センターは「有明海全体の問題として深刻に捉えている。漁場によって微妙に異なる成育環境を調べ、各地域に合った対策を打ち出した」としている。

## 諫早開門6月にも事前

### 工事 地元反発でずれ込みも

【時事通信・5月1日】農林水産省は6月にも、国営諫早湾干拓事業(長崎県)の開門調査に向けた事前対策工事に着手する方針だ。しかし、長崎県や地元農業者からは営農・防災などの観点から開門自体に反対する姿勢を崩しておらず、着工時期が大幅にずれ込む可能性もある。

開門調査は、開門に伴う有明海の環境変化を把握するのが目的で、福岡高裁の判決で今年12月までの実施が国に義務付けられた。地元関係者は、洪水や高潮による被害、農業用水不足や塩害発生、諫早湾でのカキ・アサリ養殖への悪影響などを懸念している。

このため、農水省は開門後の水位

## よみがえれ！有明海・排水門の早期開放を求める院内集会・農水省レクチャー

### 本日です！

【院内集会】 5月14日(火) 12時～13時

【農水省レクチャー】 同日 13時～

場所 衆議院第1議員会館第3会議室

を現状のまま維持させるほか、対策工事で(1)海水淡水化施設の整備による農業用水の確保(2)常時排水ポンプの設置による塩害防止などを図り、地元の理解を得たい考え。